

【港北区】平成 28 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	平成 28 年 2 月 8 日（月） 9 時 40 分 ～ 10 時 35 分
場 所	港北区役所 4 階 特別会議室
出席者	<p>【座 長】佐藤祐文議員</p> <p>【議 員：7 名】白井正子議員、酒井誠議員、川口たまえ議員、望月康弘議員、大山しょうじ議員、酒井亮介議員、豊田有希議員</p> <p>【港北区：28 名】横山日出夫区長、小野崎信之副区長、田畑和夫福祉保健センター長、下澤明久福祉保健センター担当部長、中村信治土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 平成 28 年度個性ある区づくり推進費予算（案）について</p> <p>2 その他</p>
発言の 要 旨	<p>1 平成 28 年度個性ある区づくり推進費予算（案）について</p> <p>2 その他 （資料説明・・・区長、副区長）</p> <p>望月議員： 港北魅力発見事業で、オープンヘリテイジの実施主体を区民団体に移行したことについて伺いたい。また、予算としてはどうか。</p> <p>柿沼区政推進課長： 予算としては減っている。これまでは行政主導で実施し、港北ボランティアガイドの皆さんに案内をお願いしてきたが、今後はボランティアガイド主体で行っていく。しばらくの間は、広報を含め、行政としてもバックアップしていきたい。</p> <p>望月議員： 地域防災拠点にエアマットやパーテーションなどを配備することは大事だし、宿泊訓練等を行っているところも増えてきたので、必要だと思うが、これは区配予算で行うのか。</p>

林総務課長：

区配予算が厳しくなっているため、区づくり予算から捻出して対応することとした。ただし、1年間の区づくり予算全体も限られるため、区配と区づくり予算を併せて、5年かけて重点的に配備していく計画としている。また、エアマットについては、かさばる物の方が体感はよいが、備蓄庫が狭く、置ききれないため、このようなビニールの物にしている。

児玉地域防災支援担当係長：

(エアマットの使用方法を実演)

望月議員：

1拠点当たり、何セット必要なのか。また、それを使った訓練も計画されているのか。

児玉地域防災支援担当係長：

今のところ200セット、200人分なら備蓄庫に入ると考えている。

林総務課長：

大豆戸（小学校）で宿泊訓練を行った時にモニターで使ってもらい、寒さはしのげるとのことであった。

大山議員：

5年で28拠点ということだが、順番はどのように考えているのか。

林総務課長：

地域防災拠点の運営委員の皆様と相談をして決めていきたい。また、スタンドパイプ式初期消火器具の整備については、地震火災対策方針の対象地域を最優先に、5年間で整備をしていく。

大山議員：

ウォーキングに対する若い世代の普及啓発だが、スマホのアプリを活用できるのではないかと。ルート案内板等のツールをアプリなどと連動できれば、もっと若い人も楽しめるのではないかと。

小野福祉保健課長：

ウォーキングポイントの登録数が港北区は市全体と比べると低いと、もともと歩数計を持っていたり、アプリで対応している方が非常に多い。アプリの活用については、市としてどうしていくか、ということも含めて考えていきたい。

豊田議員：

スタンドパイプ式初期消火器具は非常に効果的だと思うので、設置場所など運用についてもサポートをお願いしたい。(要望)

放置自転車ストップし隊事業で、妙蓮寺駅の隊員数が1人となっている。このような現場対応は2人ペアが基本だと思うので、検討いただきたい。

区内保育所施設PR事業で、保育所入所案内の作成とあるが、横浜市や他の子育て支援団体で作成しているものと、どのように違うのか。また、入所が厳しい状況の中、これをどのように作成していくのか。

中田学校連携・こども担当課長：

入所案内は、全市で統一したものが作成されているが、入所が厳しい状況もあり、市の統一版には掲載されていない、認可外の横浜保育室や預かり保育園などの、保育所入所の選択肢となり得るより詳しい情報を掲載したものを、港北区独自の予算で作成している。

橡木地域振興課長：

放置自転車ストップし隊事業は、全てボランティアの方により行っている。手を挙げた方が、たまたま妙蓮寺駅周辺で1人であった。放置自転車対策事業でも類似の作業があるので、これとセットで行うとか、さらにボランティアを募集するなど検討していく。

酒井[亮]議員：

区のスポーツセンターの指定管理者が民間事業者になるが、どのようなメリットが期待されているか。

橡木地域振興課長：

今回、新たに指定管理者となったのは、スポーツジムなどを経営する事業者と施設管理の事業者のJVであり、主催事業ではノウハウを生かしたいろいろな企画ができるものと期待している。施設管理についてもノウハウがあり、施設管理とソフトの両面で期待できる。

酒井[亮]議員：

昨年12月に、父親が6歳の子供の首を絞め、その後亡くなるというつらい事件があったが、いわゆる虐待児ではなかったといわれている。父親の育児も問われてくるが、港北区でも共働きが多いので、特に男性の育児支援にも注力され、今後このような事件が発生しないよう取り組んでいただきたい。

白井議員：

港北元気っ子事業で、両親教室を拡充するということが、開催場所を区役所から子育て支援拠点に移すことで、指導する体制は変わるのか。

石原こども家庭支援課長：

地域子育て支援拠点及びサテライトへの委託という形になるが、区役所での実施と同様に、助産師などの専門職が実施できる体制を継承しつつ、中身についても一緒に考えながら移していきたい。

白井議員：

いろいろな問題がある家庭は、専門職がきちんと見て発見することが一番大事だと思うので、これまでどおりの体制で行って欲しい。(要望)

白井議員：

老人憩いの家の廃止による委託料の減は、東京園の閉館によるものだが、東京園の再開に当たっての方向性や、別の場所での実施など、何らかの検討はしているのか。

橡木地域振興課長：

老人憩いの家事業は市内で3か所実施されており、他の2区は市の施設がある。港北区は施設がなく、東京園の施設を借りて実施してきた。今回、駅の工事により休業となったが、入浴については菊名の寿楽荘に設備があるので、そちらを御利用いただきたい。

白井議員：

事業の廃止でサービスがひとつダウンした気になる。今後の検討の中でも認識いただきたい。

橡木地域振興課長：

入浴の事業については、局であり方を検討しているので、併せて議論していきたい。

酒井[誠]議員：

地域防災拠点に配備されるエアマット等を訓練で使うことについて、どのように考えているか。

林総務課長：

今検討しているエアマットは、基本的には使い捨てで、一度膨らませると空気を抜くことができないため、配備とは別に区からサンプルをお渡しして、訓練で使っていただくことを考えている。使い勝手もあるので、良さそうであれば各地域防災拠点に配備していきたい。

酒井[誠]議員：

せっかく配備するのだから、少しでも皆さんの目に触れるよう、訓練での使用を促していただきたい。

林総務課長：

多くの地域防災拠点では、半年以上前から次年の準備をしているので、実物を紹介しながら訓練計画に組み込んでもらうようにしていきたい。

酒井[誠]議員：

来春、都市緑化フェアが横浜市で開催されるが、資料のどこにも項目がない。区ではどのように対応されるのか。

横山区長：

都市緑化フェアへの対応については、区づくり予算ではなく、局の予算で連携しながら実施することで、企画内容は既に協議している。区の事業としては、オープンガーデンの開催時期でもあるので、29年度予算でオープンガーデンを強化して対応していきたい。

酒井〔誠〕議員：

中心部やズーラシアだけでなく、18区で取り組んでいただきたい。外国からの来訪もあり得るので、事前の準備もお願いしたい。（要望）

佐藤座長：

局だけに任せるのではなく、区が地域も巻き込んでいく気持ちで取り組んでもらいたい。（要望）

川口議員：

元気っ子育てサポート事業で訪問してきた中での課題や、どのような指導を行ってきたかなど、特徴的なものはあるのか。また、第2子以降の新生児のうち希望者への訪問となっているが、希望する人はゆとりがあり、ゆとりがない人は希望されないのではないか。核家族化して子育ての仕方がよく分かっていない若い両親など、希望がなくても全員に訪問するなどの丁寧な支援をお願いしたい。

石原こども家庭支援課長：

横浜市としては、まず第1子を確実に訪問することとしており、港北区でも9割は訪問できている。第1子を他所で出産し、転入により港北区で第2子の子育てをすることになるが、地域情報が分からない、といった人もおり、転入者が多いという港北区の特徴を踏まえて、第2子以降の訪問に力を入れている。訪問して、指導というよりは母親の悩みを聞きながら、地域の子育て資源などの情報提供をしたり、地域とつながって子育てしていけるようにしている。

備 考